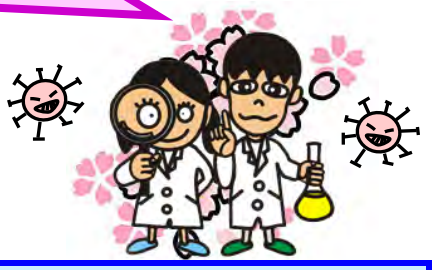
感染症に気をつけよう！

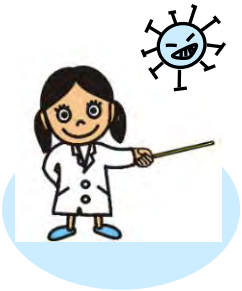
2019年【4月号】



横浜市内の感染症 流行状況

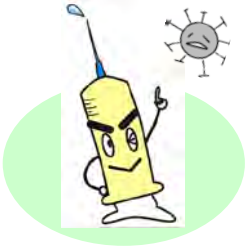
感染症*	流行状況		説明 【解説付き既刊号等】 クリック
風しん**	多発	横ばい	30～40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。 【'19.3 号】【横浜市保健所】
インフルエンザ**	散発	減少	患者報告数は3月下旬に、流行開始と判断される前の状態にまで減少しました。 【'19.2 号】

今、気をつけたい感染症 風しん



● 風しんの症状は、軽いものから重いものまで幅広いです。特に大人が発症すると、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛が出るなど、子どもより重症化することがあります。

▶ また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院治療が必要になる例もみられるため、十分に注意しなければなりません。



● 市内でも全国と同様に、ほとんどの患者さんが予防接種を受けていないか、接種歴が不明です。

▶ 風しんにかかったことや、ワクチンを2回受けたことがはっきり分からない場合は、抗体検査や予防接種についてご検討ください。

● 妊婦が風しんに感染すると、お腹の赤ちゃんにも感染して、先天性風しん症候群* になる可能性があります。

▶ あなた自身と、周りの人を守るためにも、予防接種を受けましょう。
（妊娠中は受けられません。）

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ *:国立感染症研究所 **:厚生労働省

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】